

ステップアップメイカーズプロジェクト

○プロジェクトの目的

・メイカースペースでプログラミングやものづくりを行うことを通して、児童生徒のキャリアの視野を広げるための場として提供する。

○プロジェクトの方法

メイカースペースのキャリア教育的要素について

- ・キャリア教育的な要素をもった授業実践を実施
- ・子どもたちの活動がキャリア教育の観点でとういった意義を持つのか(例)エンジニア、デザイナー、プログラマー、クリエイター、協働など
- ・メイカースペースで必要な学習環境やその効果について検討する

メイカースペースの学習環境について(継続的に実施)

- ・昨年度までに出た課題についての改善策を検討し、解決を行う。
- ・観察記録、またインタビューを行い、効果的な環境設定を行う。
- ・プログラミングやものづくりに影響があるものについてまとめる。

プロジェクト全体を振り返り、学校現場にメイカースペースを導入する効果についてまとめ、成果報告を行う。

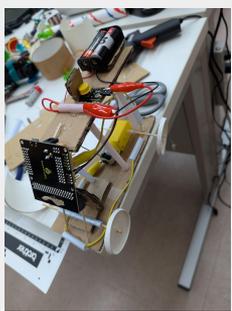
○申請団体

信濃町立信濃小中学校メイカーサポーター

○プロジェクトの計画

月	授業実践	学習環境	Educational Challenge
5	・授業計画	・課題の改善策を検討, 実施	第一次選考(下旬)
6	・先生方と相談	※下記は継続的に実施	第二次選考(11日)
7	・授業準備, 実践 1(予定)	・メイカースペースを利用する	
8	・実践 1 振り返り, 改善	子どもの観察記録, インタビューを行う	
9	・授業準備, 実践 2(予定)	・効果的な環境設定の検討, 実施	
10	・実践 2 振り返り, 改善		中間報告会(8日)
11	・具体的な単元モデルの検討		
12			
1	・発表準備		
2	・成果報告		最終報告会(12日)
3			最終報告提出(末)

現在のメイカースペース



休み時間



教科



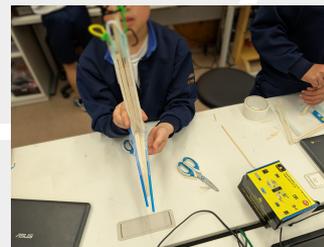
メイカースペース



先生



クラブ活動



質疑応答

Q 2の方法で、昨年度までに出た課題についての改善策を検討するとありますが、どのような課題がありますか。

A 課題につきましては、利用する学年の偏り・教員や学校全体のへの認知度が低いことが挙げられます。利用する児童生徒は増えてきているものの、教員の認知に偏りがあったり、誰でも使っていい場所としての共通認識が学校全体ではできていません

Q 昨年度からの継続性と発展性についての確認です。「1. 本プロジェクトの目的」で「④昨年度までに出た課題の解決を行い、より良い場所を目指す。」とありますが、具体的などのような課題があるか、そしてその解決の見通しを教えてください。

A 前者の質問は、上記のとおりです。後者の質問に関して、各学年の先生方と話し合い、朝の時間を活用してメイカースペースの説明を行いました。児童生徒のメイカースペースの理解を促すとともに、先生方の認知や理解も促すことができました。また、日頃の活動の様子を学校全体のチャットで共有し、メイカースペースの魅力を日々発信することを心がけています。これらの積み重ねによって、メイカースペースの認知や理解を確立していこうと考えています。

Q 2の方法で、プロジェクト全体を振り返り、大学院の実践報告会にて成果報告を行う、とありますが、教職大学院で課されている実践研究と、今回のプロジェクトの違いは何でしょうか。現在の申請書だと、同じに見えます。

A 本プロジェクトの相乗効果を志向するという点で、実践研究で行っている「STEAM教育を志向したメイカースペース活用授業の効果検証」と重なってくる部分もちろんあります。しかし、本プロジェクトではメイカースペースと授業の連携に加えて、休み時間での児童生徒の日々の創造的活動、その発信を行い、学校全体としてメイカースペースの利用価値を認識すること、またキャリア教育的な意義もあるということを示していこうと考えています。

Q 安全面への対応における危険性の箇所で、「怪我や火傷をする可能性がある」と記述されていますが、これまでの怪我や火傷の事例はあるのでしょうか。またそれを踏まえて特に児童生徒に指導しようとする内容があれば、教えていただけますでしょうか。

A これまで怪我や火傷の事例は出てきていません。しかし、補足資料の写真のように延長コードの一部が溶けるという事例が発生しています。この一件から、児童生徒に自分たちが使っている機械の危険性について認識してもらい、使い終わったら電源を落とすことや周りに燃えやすいものを置かないことなど正しい使い方を一緒に確認しました。この一件以降は、児童生徒同士で使い方を指摘し合うように指導し、できていなければ使い方について直接指導しています。

Q 一昨年、昨年の活動との違いを教えてください。

A 一昨年、昨年の活動との大きな違いは、メイカースペースを教科のハブとして位置づけようとしていることです。昨年度までは、教科の活動の一部やコミュニティとしてメイカースペースを位置づけてきました。これらの背景を踏まえつつ、本年度の活動ではフレキシブルな教科との連携やより良い学習環境づくりを目指し、メイカースペースがもたらす効果について検討していこうと思っています。

Q 特別活動の費用が計上されていますが、クラブ・委員会活動の費用であれば、学校からの補助はいただけないでしょうか？

A 特別活動の費用について、学校の先生方と話したところクラブや委員会活動の費用は準備されているものの、今年度から高等部のクラブ活動が開始し、クラブの数が増えたことから費用がほとんどないこと、また委員会活動の費用は文化祭の準備でほとんどなくなることがわかりました。